

Ⅲ 養 豚 部 門

1. 本県養豚の動向

平成 23 年 2 月 1 日現在の県内豚飼養状況は、飼養戸数 64 戸、頭数 74,900 頭で対前年比は戸数 90.1%、頭数 94.0%となり、戸数で 7 戸減、頭数では 4,800 頭の減となった。また、1 戸当り平均飼養頭数は 1,170 頭となり前年比 105.1%となった。

2. 診断農家成績の分析概要

平成 24 年度畜産経営技術高度化促進事業実施にあたり、養豚部門の経営診断指導対象（経営診断に基づく改善指導 4 戸、経営管理技術指導 1 戸、生産技術指導 2 戸、フォローアップ指導 4 戸）の中から総合的な分析に必要な数値が把握できた 4 事例について概要を述べる。

(1) 経営の概況

- ◆ 4 事例とも繁殖・肥育一貫経営であり、すべて養豚専業経営である。
- ◆ 経営組織として 3 事例（No.1・No.2・No.4）が法人経営で 1 事例（No.3）は家族経営ある。
- ◆ 労働人員 1 人当り母豚飼養頭数は全 4 例の平均で 252 頭であった。

(2) 繁殖成績

◆ 人工授精の活用

4 事例の平均母豚飼養頭数 252 頭に対して、平均飼養種雄豚数は 9.1 頭で、雄豚 1 頭当りの母豚数は平均 27.7 頭（頭）となっている。これは自然交配主体（以下 NS）か人工授精技術活用（以下 AI）かによって異なる。

4 農場全てで AI を活用しており、利用方法は自家採取での 100%AI または購入精液である。100%AI 活用農場での雄豚保有頭数は母豚 15～43 頭に対して 1 頭で、比率の低い農場は F₁生産のための純粋雄豚（L・W）を抱えていることが関係していると思われる。

◆ 1 腹当りの生存子豚、離乳子豚頭数と育成率

1 腹当り生存子豚頭数は平均 10.4 頭（9.4～11.3 頭）で指標値 10.6 頭を 0.2 頭下待った。生存産子数が 10 頭を下回った No.3 の事例では、今後とも、分娩時の助産や交配適期をつかみ、ずれによる受胎数（総産子数）の低下を防ぎ、日常の発情チェックや夏場の精液チェックなど季節ごとに応じた交配妊娠管理を行う等、生存産子数の増加に努めて欲しい。

1 腹当り離乳子豚頭数の平均は 9.3 頭（8.2～10.2 頭）で、指標値 9.8 頭より 0.5 頭下

回り、指標値をクリアした事例は No.4 の 1 事例となった。

離乳子豚数は生存子豚数や育成率などによって大きく変動する。正常な飼育管理下における 1 腹当りの産子数は、母豚の品種構成や遺伝的資質によるところが大きく、これに交配時の発情状況（交配適期）と交配精液性状、種付回数などが総合されたものであるため、人為的に大幅増やすことは難しいものの、離乳子豚数の改善策としては分娩施設面の見直し、分娩・哺乳時のきめ細やかな管理や分割授乳の導入、夏場の圧死対策などの飼養管理改善による育成率の向上を目指す方が容易であろう。

育成率は平均 89.7% となり、85.9%～98.4% と昨年度平均より 2% 程度上昇した。90% に達したのは 1 事例のみで、90% に達しない経営は哺乳豚管理の見直しが必要。特に哺乳中子豚事故で 1 腹当り 1 頭以上を損耗している事例については、分割授乳の実施による虚弱死の低減や哺乳子豚管理の見直しが必要である。

◆ 離乳日令と分娩回転数

4 事例の平均離乳日令は 25.2 日で前年より 0.5 日の減となり、4 事例とも 25 日前後とバラツキはなかった。

分娩回転数の平均は 2.2 回転で、最低値 2.0～最高値 2.3 となった。

◆ 更新率

4 例の種雌豚更新率平均は 44.4% であったが、更新に際しては年間を通じて毎月安定した分娩数が得られるように計画的に行うことが望ましく、また、淘汰・更新は固体ごとの繁殖成績記録によつて的確に行い、母豚群の平均産次を 4～5 産にすることが望ましい。

(3) 肥育成績

◆ 母豚 1 頭当り出荷頭数

1 母豚当り出荷頭数は、16.5～21.4 頭となり、平均は 19.4 頭と前年平均より 0.1 頭の増となった。指標値の 21.4 頭をクリアできた農場は No.4 の 1 事例で安定的に出荷頭数を確保できている優良事例でもある。しかし平均値は指標値と比べると 2.0 頭下回っている。原因としては、いろいろな要因が複合した結果ではあるが、その主な要因として考えられるものに育成率の低下につながる哺乳中子豚の事故と離乳後の育成から肥育出荷までの事故による損耗がある。

◆ 事故率

離乳から出荷までの事故率の平均は 4.1% となり前年度平均より 2.9% の減となり、年々減少傾向にある。農場間較差は 2.7%～5.5% と大きな格差はなく、各事例とも安定している。

近年、PRRS や PED 等の新しい病気や、ヘモフィルス、パスツレラ等の慢性呼吸器疾病も広く浸潤している中で事故率 3% 以下という指標は高いハードルとなっているが、

4%前後まで各農場が到達し日々の飼養管理や衛生管理が数字となって表れた結果となった。

◆ 肉豚・枝肉の出荷

本年度の平均出荷生体重は 113.0kg で前年平均と比べ 1.3kg 下回った。平均枝肉重量は 74.6kg で前年平均と比べ 0.9kg 下回り、肉豚出荷豚の枝肉歩留まり率は平均で 66.0%となった。

◆ 飼料要求率

本成績の農場飼料要求率の積算は、農場内での飼料給与総量を肉豚出荷生体量と候補豚頭数（110kg と推定）の合計体重で除したものであり、活豚出荷、棚卸体重の増減を見ていない。

農場飼料要求率は平均で 3.49（3.20～3.71）で、指標値の 3.4 をクリアーしている事例は No.1 のみであった。農場要求率には事故率が大きく影響し、特に肥育中期以後の事故が大きく関与するので事故内容を把握した損耗防止対策が必要である。

◆ 豚舎面積と密飼いの影響

豚舎面積と飼養密度の評価については、全体面積の大小よりも、ステージ別・用途別の豚房のアンバランスによることが多く、密飼いの多くは特に離乳豚房、肥育豚房の不足による例が多い。慢性呼吸器病による事故率の上昇原因として密飼いが主要な原因として重視されているが、頭数に合せた施設の改善か、施設規模に合せた飼養頭数の調節により事故率の低減を図って欲しい。

（4） 収益・経済性分析

◆ 種豚 1 頭当り生産物売上高

養豚一貫経営における収益性を検討するにあたり、母豚 1 頭当りの生産物売上高をみると表-2・表-3 にあるように、平均 664,551 円（628,295 円～734,991 円）で前年平均より 16,962 円の増収であった。

出荷豚の枝肉 1 kg 当り販売額は表-3 に示すように平均 451 円となり、前年度平均と比べ 9 円の増額となった。

戸々で見ると No.4 の 422 円と NO.3 の 504 円とでは 82 円の差があった。各経営の決算期の関係による市場価格差もあり一概に比較出来ない部分もあるものの、銘柄豚生産割合や上物率等の違いも、価格差を大きくする要因の一部である。

肉豚出荷価格の年間変動は大きく、出荷のタイミングによって同質の肉豚でも大きな収益差が生じる。平成 23 年の東京市場上物価格は平均 467 円で本年度調査 4 農場の年間枝肉価格平均 451 円で上物平均価格の 16 円安となった。

平成 23 年 東京市場 上物平均枝肉卸売価格

(円/kg)

1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
428	497	474	489	488	541	533	495	450	362	393	449

◆ 生産費

種雌豚 1 頭当りの生産費用及びその構成費目の内訳については表-2 に示すとおりである。

種雌豚 1 頭当りの 4 事例平均生産費用は 585,044 円となり、その構成費割合を円グラフにしたものが図-1 である。平均では構成費割合の大きい順に、飼料費が過半の 56% を占め、次いで人件費（給与手当＋役員報酬）が 18%、衛生費 8%、これらの主要 3 費目で 82% となった。また各農場の主要費目割合を棒グラフにしたものが図-2 である。

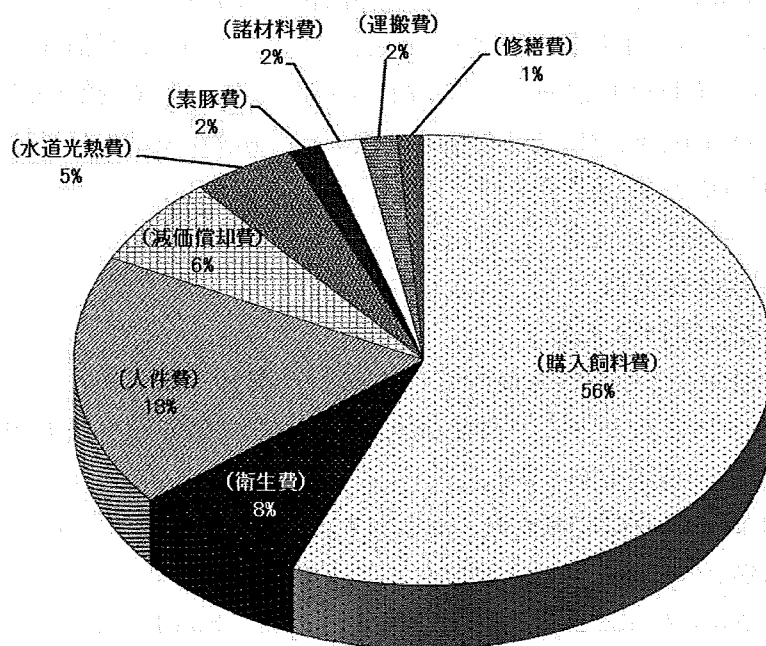


図-1. 生産費用の構成比割合

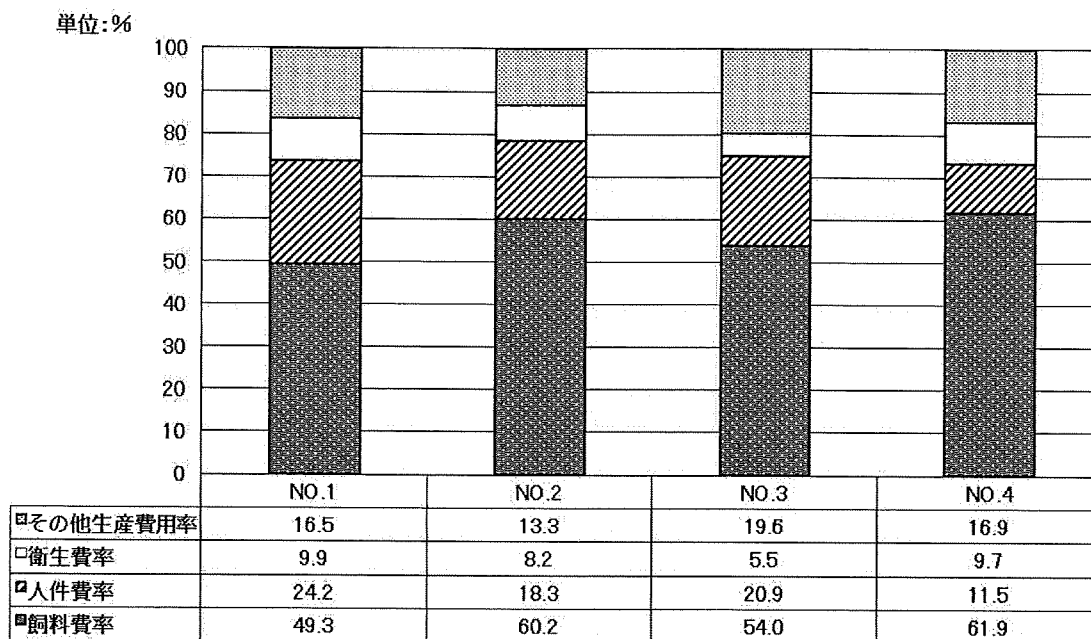


図-2. 生産費用の構成比割合

◆ 売上高に占める主要生産費の割合

売上高に占める各生産費目の割合は、図-3 に示すとおりである。飼料費の割合については4農場の平均は49.8%で前年より1.3%上昇した。

売上高に対する衛生費割合は表-3 のとおりで、平均7.2%となり種豚1頭当りの衛生費(表-2)については平均48,206円で(35,284円~48,206円)と差があり前年平均に比べ15,145円の増額となった。特にNo.1・No.4の事例では前年より大幅に上昇となったものの離乳後事故率は両事例とも低く抑えられている。特にNo.1の事例は離乳後事故率が50%近く下がり、1母豚当たりの出荷頭数が1.2頭増えた事により1母豚当たりの利益も確保しており、費用対効果が表れている。

種雌豚1頭当りの生産物売上高と生産・販売費用を対比してみると、図-4のようにNo.2・No.3・No.4の事例の経営で生産・販売費用が生産物売上高より上回った。当期利益では補填金、奨励金等の事業外収益によりプラスとなった経営もあるものの養豚生産販売では費用が売上を上回る結果となった。

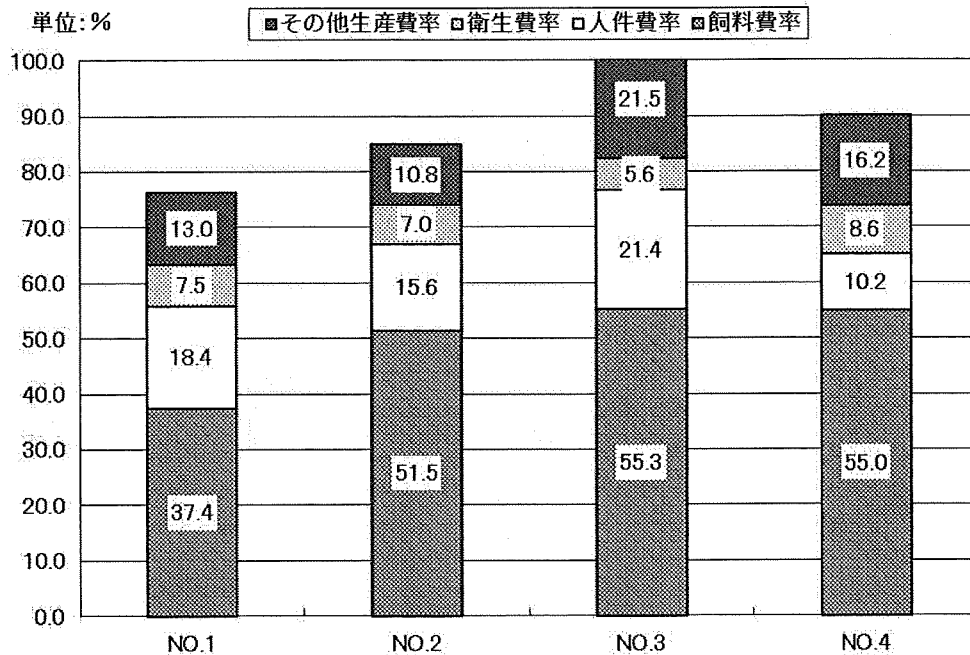


図-3.売上高に占める主要生産費の割合

◆ 飼料価格

生産費で最大構成比率を占める飼料費の1kg当り加重平均価格は表-3に示すように44.3円となり前年平均より4.5円上昇した。それぞれの飼料単価については、年間全飼料購入金額を全購入量で除したもので、自家配合(原材料価格のみで労賃をみない)、をしているところ等があるため単純に比較はできない要素もあるが、35円~53円と差があり、購入単価以外にも飼料給与体系の検討が望まれる。また、食品未利用資源の活用により、飼料単価を抑えている事例もある。

◆ 種豚1頭当り利益

1母豚当たりの飼料費(加重平均)は前年比105.5%となったものの、母豚当たりの生産原価では前年比100.7%とほぼ同率となった。また、売り上げに関しては、平成23年(1月~12月)は東京市場の上物平均で467円と安定した相場の中で、No.1・No.2の事例は収支がプラスとなった。種雌豚1頭当たりの当期利益の平均は-19,283円となり前年平均と比べ5,438円の増額となった。

それぞれの事例を見てみると、No.1は飼料kg当たり平均価格が前年に比べ1円の35円/kgとなり、飼料費コスト削減により売上高飼料費率は40%切っている。出荷豚1頭当たりの生産原価も-795円の25,879円とコストダウンされた。枝肉kg販売単価では前年に比べ6円安の454円となり、出荷豚1頭当たりの販売額では枝肉平均重量が前年度より1.7kg小さくなった為、前年比1,246円安い33,574円となった。1母豚当たりの肉豚出荷頭数では19.7頭と、前年比1.2頭増えた結果、1母豚当たりの売上高は前年より21千円増え当期利益は1母豚当たり23,121円という結果となった。

No.2は飼料kg当たり平均価格が前年に比べ1円上昇し42円/kgとなり出荷豚1頭当たりの生産原価は26,593円と前年に比べ237円の上昇となった。枝肉kg販売単価は前年に比べ2円安い422円となった。荷豚1頭当たりの販売額は平均枝肉重量で前年比1.7kg減となり、前年より820円安い30,954円となった。1母豚当たりの肉豚出荷頭数は19.9頭と前年に比べ1.3頭減少し、1母豚当たりの売上高は前年より53千円減額した。当期利益は事業外収入が少なかったことにより1母豚当たり867円という結果になった。

No.3の飼料kg当たり平均価格は前年に比べ6円上昇し54円/kgとなり、売上高飼料費率は事例中最も高く55.3%となった。出荷豚1頭当たりの生産原価は前年度に比べ1,135円の増となった。1頭当たりの販売額39,399円となり枝肉kg販売単価が14円上がった事により、前年に比べ1,105円の増額となった。しかし1母豚当たり出荷頭数16.5頭と前年より3.2頭減と大幅に減少した結果、売上高が前年比101千円減少し、1母豚当たりの当期利益は△84,889円となった。

No.4は飼料kg当たり加重平均価格が48.4円となり、売上高飼料費率は5割を超え、55%となった。1母豚当たりの購入飼料費は事例中最も高く404千円となり、図-2に示すとおり生産費用の約62%を占めている。枝肉kg販売単価は426円となり1母豚当たり平均枝肉重量75.2kg、1母豚当たり出荷頭数21.4頭と好成績ながら、生産販売費用が生産物売上高を上回り純利益が伸び悩んだ結果となった。(図-4)

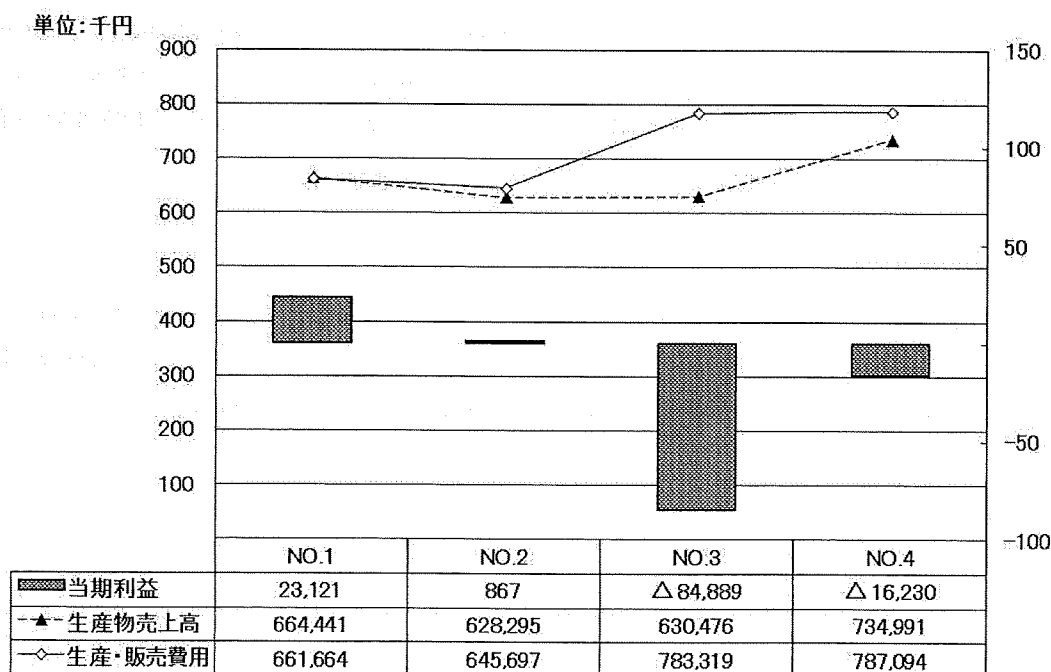


図-4. 種豚1頭当り売上高と経常利益

◆ 種雌豚当り所得

4 事例の種雌豚 1 頭当り所得平均は 41,886 円 (△3,777 円～74,204 円) となり、指標値の 10 万円以上の所得があった事例はなかった。所得は当期利益に役員報酬又は家族労賃を加えたもので、役員報酬 (家族労賃) の高低が大きく関係している。

3. 指導の方向と対策

H23 は飼料原料価格の高止まりによる飼料費比率の上昇もあり、生産原価は前年度よりやや上昇した。今後も飼料費の高止まりが予想されるため、より一層のコスト見直しをすると共に、生産性向上による効率の良い経営を行うことが重要である。

(1) 繁殖性向上対策

◆ 受胎率の向上

受胎率向上には授乳母豚の個体栄養管理を徹底して行い、適度なボディーコンディションで離乳し、5 日以内での発情再帰を促し、初発情交配で 85% 以上の受胎率を目指したい。

受胎の成否は自然交配、人工授精を問わず交配適期の把握が最も重要であり、そのためには発情状況の観察を注意して行い、2～3 回の複数回交配が望ましい。交配に当たっては正常精液の利用が前提であり、定期的な精液検査は欠かせない。

再発情豚の交配に当たっては、発情徴候、交配時期に留意し、さらに不受胎となった場合の供用継続か更新かについては早期に判断する。妊娠鑑定は早期に確実にを行い、空胎豚の無駄な飼養を無くし、妊娠豚に関しては個体管理を徹底して事故防止に努める。また、受胎率低下は夏場交配 (暑熱環境) によることが多く、雄豚へのドリップクーリングや気温の上昇しない早朝に交配を行うなどの夏場対策が必要である。

◆ 分娩率の向上

折角の妊娠も分娩まで至らなければ大きな損失になる。妊娠豚の栄養・飼養管理を十分に注意し、母豚移動などに伴う物理的事故原因の排除、日本脳炎やパルボの予防処置等、流・早・死産をさせないように心掛け妊娠豚を無事分娩させたい。

◆ 育成率の向上

種雌豚 1 頭当りの生産性を上げるには、育成率の向上と安定が欠かせない。育成率向上の要点は、哺乳子豚の飼養・衛生管理で、本事例中の哺乳子豚事故内容として虚弱と圧死によるものが多く、虚弱に関しては妊娠豚の適切な栄養管理を行い、なるべく虚弱子豚を出さないよう心掛ける。また、圧死に関しては分娩房の構造や子豚の居住環境、母豚の性質・泌乳能力など幾つかの要因が考えられるので、原因の究明と対策が必要である。県内の優良事例では分割授乳や授乳母豚の飼料給与中は哺乳子豚を隔離することで圧死等の事故低減を図り、育成率の向上に成功してい

る事例もあることから、分娩看護及び哺乳管理に問題のある事例はこうした、管理も取り入れながら、改善に取り組んで欲しい。また、十分な労働力の確保が難しい時に疎かになりがちの部分でもあり、今後の改善には均一的な労働力確保か計画的な交配分娩管理も必要。

(2) 肥育成績向上対策

◆ 種雌豚当り出荷頭数の増頭と事故率の低下

対象経営における肥育成績の改善ポイントは種雌豚1頭当り出荷頭数、即ち枝肉出荷量の向上にある。

県畜産経営指標の肥育技術では肉豚出荷生体重115kg前後で枝肉重量75kg前後となっており、これら指標値をクリアーするためには、多様化する疾病に対する予防対策の徹底と密飼い等の飼養管理を改善することにより、生産した豚の損耗を防止し事故率の低下に努め、1母豚当り年間出荷頭数21.4頭以上、出荷枝肉量1,600kg以上を目指して欲しい。

離乳後事故率に関しては、表-4にあるように平成15年以降上昇の傾向にあったが、今期はかなり下降した。事故の内容は主にPRRSと呼吸器系による被害が多く、離乳後30kgまでの事故が目立っている。オールイン・オールアウト後の徹底した洗浄・消毒・乾燥の実施、外部導入豚の馴致や作業域の区別や人の流れ、ピッグフローの見直し等、各農場での問題点の把握と各機関との連携による改善が必要である。

◆ 出荷豚（肉質）評価の向上

肉豚評価を左右する主な要因は概ね3つに大別される。

- ① 素豚（遺伝的要因）
- ② 飼養技術（飼料の質・栄養水準と給与方法、豚群の編成等）
- ③ 出荷技術（出荷日令・体重・出荷先選定）

最も基本的な要因は①の遺伝的資質であるが、これは母豚群の品種・系統構成によるもので長期にわたるデータに基づく選抜が基本で短期的な改良は難しい。

飼料の質と給与方法については、素豚の資質にあった栄養レベルの飼料により適度な発育の早さ（出荷日令と体重）で高い上物率が得られるよう飼料の選択と給与をする。

同時離乳腹数の多い大型経営ではできるだけ同質、近似日令の豚群編成に心掛け、雄雌別群として豚群の資質と発育ステージにあった段階的飼料栄養水準飼料の給与（フェイズフィーディング）を行う。

肉豚出荷に対しての個体チェックは不可欠であり、個体計量はその基本である。個体標識により、個体経歴から枝肉評価まで一連のデータとしてその結果が次の交

配や選抜・淘汰にフィードバックできるシステム化が望ましい。

(3) 畜産環境対策

家畜排泄物は、これまで畜産業における資源として農産物や飼料作物の生産に有効に利用されてきた。しかしながら、近年、畜産経営の大規模化の進行、高齢化に伴う農作業省力化等を背景として家畜排泄物の資源としての利用が困難になりつつある一方、地域の生活環境に関する問題も生じている。

畜産経営に起因する環境問題発生率は、家畜飼養規模の拡大や混住化の進展等に伴い増加している。そうした中で、苦情の内容は全家畜を通じて悪臭関連が最も多く、ついで害虫発生や水質汚濁である。家畜排泄物について、その適正な管理を確保し、堆肥として活用するなどの資源としての有効利用を一層促進していく必要がある。

◆ 臭気対策

畜舎内の臭気は舎内にある糞尿の量に左右され、畜舎内の基本的な臭気対策は糞尿の早期搬出の励行である。また、周辺の住宅事情等によっては周囲から苦情の出る前に消臭剤・脱臭剤の利用など、先手を打った行動が極めて重要である。

◆ 堆肥の流通促進

有機農産物需要の増大を背景に家畜糞の需要が高まっており、地域を越えた広域流通化の機運にある。

これに応えて、供給できる堆肥の質量・販売条件などを堆肥流通情報として畜産会ホームページ上で広報しているのも、良質堆肥の生産と流通の情報化への積極的協力を願いたい。また最近、耕畜連携という言葉が誌面上でも良く見かけるようになった。今後、畜産サイドも堆肥づくりだけでなく、いかに利用者側の意見や希望を吸収し製品を提供できるかが課題になる。まずは生産した堆肥の成分程度は知っておく必要があるだろう。

(4) 食肉の販売取り組み

◆ 安全性・信頼性をアピールできる県産豚肉の生産・販売

近年、国内外の家畜や家禽の疾病の発生に伴い、消費者は食肉の安全性・信頼性にとっても高い関心を持つようになった。これからは消費者に対する食肉の安全性・信頼性の提示は必要不可欠なものとなる。そのためには生産段階での適切な飼養管理をきちんと行い、より健康で安全な食肉を消費者に提供しなければならない。また、近年、農場段階での HACCP 構築が取組まれ始め、飼養衛生管理基準の遵守を

はじめ、農場の各作業工程をきちんと管理することで、農場内にある危害要因を管理コントロールし、安全な食品原料を供給することで、国内畜産物の安全性をより消費者に対してアピールしていく重要なツールとなると考えられる。今後、農場から食卓までのトレーサビリティシステムの構築やの活用など消費者の目に見える安心安全を目指す。

これからの養豚経営は、豚肉生産だけでなく経営の生き残りをかけて、どのような付加価値を付けて何処に売り込むのかのマーケティング戦略が必要になる。現在の県内豚肉自給率はわずか6~7%に過ぎない。県内養豚生産者は過去10年で半数近くまで減少し、出荷頭数は年々減少傾向にある中で、県産豚肉自体が付加価値といえるようになってきた。各種銘柄だけが付加価値を付ける方法ではなく、消費者のニーズに応えられるような安全で美味しい豚肉を県全域で生産し、地産地消や生産者の顔が見える販売方式を前面に出すなどして、消費者に信頼され、評価される生産・販売を心掛ける必要がある。

4. 経営診断分析図表

表一 平成23年度 養豚経営技術分析数値(経営規模・繁殖・生産技術)

区分	項目	(H21) NO.1 一貫経営	(H22) NO.1 一貫経営	(H23) NO.1 一貫経営	(H21) NO.2 一貫経営	(H22) NO.2 一貫経営	(H23) NO.2 一貫経営	(H21) NO.3 一貫経営	(H22) NO.3 一貫経営	(H23) NO.3 一貫経営	(H22) NO.4 一貫経営	(H23) NO.4 一貫経営	平均値	最大値	最小値	指標	前年平均値		
経営規模	労働力1人当り飼養母猪数	56.0	59.5	61.7	60.5	58.7	59.7	50.4	52.5	54.2	58.3	57.2	58.2	61.7	54.2	一貫経営	58.7		
	労働力1人当り飼養雄豚数	1.6	1.7	1.4	3.7	4.8	3.9	3.0	2.7	2.8	2.3	2.3	2.6	3.9	1.4	一貫経営	3.4		
	1腹当総産子数	10.8	11.0	11.0	12.9	12.3	12.5	11.3	11.4	11.4	10.3	11.7	11.5	11.3	12.5	10.3	一貫経営	11.3	
繁殖	1腹当生存子豚数(頭)	10.3	10.5	10.5	12.1	11.4	11.3	10.4	10.3	9.4	10.0	10.3	10.4	11.3	9.4	10.6頭以上	一貫経営	10.3	
	1腹当雌乳子豚数(頭)	9.1	9.2	9.2	9.4	9.5	9.7	9.3	9.1	8.2	9.5	10.2	9.3	10.2	8.2	9.8頭以上	一貫経営	9.0	
	母猪1頭当生存子豚数(頭)	24.1	23.8	24.5	28.0	26.4	25.4	25.6	21.2	18.7	18.7	23.2	23.7	23.1	25.4	18.7	24.4頭以上	一貫経営	22.9
技術	母猪1頭当雌乳子豚数(頭)	20.7	21.0	20.7	21.4	21.6	21.8	22.5	19.1	16.4	16.4	21.9	22.7	20.4	22.7	16.4	22.5頭以上	一貫経営	20.0
	1腹当哺乳子豚事故(頭)	1.4	1.3	1.1	2.2	1.8	1.6	1.3	1.5	1.2	1.1	1.1	0.5	1.1	1.6	0.5	0.8頭以下	一貫経営	1.4
	育成率(%)	88.3	87.6	87.3	77.7	83.1	85.9	89.1	88.3	87.3	87.3	95.2	98.4	89.7	98.4	85.9	92%前後	一貫経営	87.5
術肥	年間離乳日令(日)	26.0	27.1	24.3	25.8	25.1	25.2	27.0	27.0	27.0	27.0	24.7	24.4	25.2	27.0	24.3	25日前後	一貫経営	25.7
	母猪更新率(%)	42.4	41.8	36.7	25.8	59.9	59.6	13.2	12.7	32.0	80.6	49.5	44.4	59.6	32.0	40%前後	一貫経営	41.2	
	分娩回転(回)	2.34	2.28	2.33	2.31	2.31	2.25	2.45	2.07	2.00	2.00	2.32	2.29	2.2	2.3	2.0	2.3回以上	一貫経営	2.23
育	1母猪当年間出荷頭数(頭)	17.4	18.5	19.7	19.0	21.2	19.9	20.9	19.7	16.5	16.5	21.4	21.4	19.4	21.4	16.5	21.4頭以上	一貫経営	19.3
	肉豚出荷1頭当生体重(kg)	115.6	115.5	112.9	113.0	113.4	110.9	116.3	114.1	114.5	113.1	113.8	113.0	114.5	110.9	115kg前後	一貫経営	114.3	
	1頭当り枝肉量(kg)	75.7	75.6	73.9	74.7	75.0	73.3	75.6	75.8	76.0	76.0	74.1	75.2	74.6	76.0	73.3	75kg前後	一貫経営	75.5
技	母猪1頭当出荷枝肉量(kg)	1,283.8	1,367.1	1,429.0	1,383.5	1,547.3	1,420.4	1,569.7	1,486.4	1,229.7	1,229.7	1,339.9	1,609.1	1,422.1	1,609.1	1,229.7	1600kg以上	一貫経営	1,427
	農場(経営)飼料要求率	3.37	3.36	3.20	3.57	3.57	3.71	3.43	3.59	3.44	3.44	3.79	3.62	3.49	3.71	3.20	3.4%以下	一貫経営	3.58
	枝肉経営飼料要求率	5.27	5.25	4.98	5.4	5.34	5.53	5.31	5.43	5.27	5.27	5.87	5.49	5.32	5.53	4.98	3.4%以下	一貫経営	5.47
術	繁殖率(雌乳一出荷)(%)	7.9	7.3	3.8	6.8	6.4	4.4	7.0	8.4	5.5	3.0	2.7	4.1	5.5	2.7	3%以下	一貫経営	7.0	

* 1母猪当年間出荷頭数=(肉豚出荷+候補豚繰出し+子豚出荷)/年間平均母猪数

表一2 平成23年度 種雌豚1頭当り損益分析表

項目	(H21) NO.1	(H22) NO.1	(H23) NO.1	(H21) NO.2	(H22) NO.2	(H23) NO.2	(H21) NO.3	(H22) NO.3	(H23) NO.3	(H22) NO.4	(H23) NO.4	平均	最大値	最小値	前年平均値
期首棚卸高	97,144	117,139	99,979	89,717	112,849	118,642	230,192	189,135	156,931	145,797	161,686	134,310	161,686	99,979	140,708
(購入飼料費)	253,866	256,685	248,708	336,561	331,618	323,670	445,882	389,355	348,502	354,365	404,129	331,252	404,129	248,708	313,985
(素豚費)	0	2,312	918	0	0	0	10,853	9,823	16,702	0	0	5,873	16,702	0	6,342
(衛生費)	47,189	36,490	50,160	50,982	46,308	44,017	45,116	36,505	35,284	42,112	63,361	48,206	63,361	35,284	33,061
(運搬費)	2,696	7,415	7,292	14,038	12,753	12,224	0	0	0	0	0	9,872	12,224	7,292	8,107
(諸材料費)	9,245	0	19,109	3,599	9,719	5,960	45,116	4,239	5,489	12,173	14,085	11,153	19,109	5,489	6,975
(修繕費)	10,885	12,210	8,539	5,881	12,461	8,943	6,447	47,477	3,170	19,605	7,958	7,153	8,943	3,170	19,602
(水道光熱費)	29,962	24,193	21,902	29,107	27,351	23,274	37,100	35,862	35,415	31,661	32,685	28,319	35,415	21,902	27,601
(減価償却費)	28,661	24,641	23,571	96,022	17,750	18,419	56,846	70,535	64,644	50,827	45,681	38,079	64,644	18,419	31,301
(人件費)	110,711	100,196	122,031	0	105,382	98,085	144,807	151,066	134,913	60,913	75,080	107,527	134,913	75,080	119,403
(飼養雑費)	0	16,084	2,118	2,618	2,698	2,652	315	0	0	7,875	134	1,635	2,652	134	1,996
生産費用	493,431	480,235	504,348	563,142	566,166	537,243	755,761	744,862	645,403	591,462	653,183	585,044	653,183	504,348	566,069
期末棚卸高	△ 124,516	△ 103,661	△ 94,328	△ 109,528	△ 120,682	△ 125,077	△ 195,861	△ 161,841	△ 146,546	△ 176,512	△ 195,827	△ 140,445	△ 94,328	△ 195,827	△ 128,845
期中種豚振替額	10,704	11,858	10,115	15,750	14,875	15,963	4,814	0	0	0	0	8,689	15,963	0	13,431
当期生産原価	455,354	481,855	499,884	527,580	543,456	514,854	785,278	772,156	655,583	560,748	619,041	572,341	655,583	489,884	567,859
販売管理費計	173,461	148,140	161,780	132,306	137,610	130,843	158,718	139,871	127,737	150,931	168,053	147,103	168,053	127,737	124,572
事業外費用	13,755	12,227	9,174	28,205	28,496	17,210	6,461	5,072	6,061	3,148	2,983	8,857	17,210	2,983	13,205
費用合計	642,570	642,222	670,838	688,091	709,563	662,907	950,457	917,099	789,380	714,828	790,077	728,301	790,077	662,907	705,635
生産物売上高	591,440	642,908	664,441	584,311	681,991	628,295	728,422	731,887	630,476	660,554	734,991	664,551	734,991	628,295	647,589
(肉豚売上高)	563,119	629,025	648,508	567,002	655,168	599,280	720,661	728,765	619,326	564,614	685,866	638,245	685,866	599,280	631,996
事業外収益	46,993	21,961	27,184	113,838	28,797	35,480	107,962	54,790	74,015	33,285	38,857	43,984	74,015	27,184	33,325
総収益	638,433	664,969	693,959	698,150	710,788	663,775	836,384	786,677	704,491	693,839	773,847	709,018	773,847	663,775	680,914
当期利益金	▲ 4,136	22,647	23,121	10,059	1,225	867	△ 114,072	△ 130,423	△ 84,889	△ 20,988	△ 16,230	△ 19,283	23,121	△ 84,889	△ 24,721
所得	52,163	68,678	74,204	60,836	53,541	49,165	28,816	19,260	47,952	△ 8,635	△ 3,777	41,886	74,204	△ 3,777	40,391

表一-3 平成23年度農場別經濟性分析表

項目	農場 No.	(H23) NO.1													前年平均値			
		(H21) NO.1	(H22) NO.1	(H23) NO.1	(H21) NO.2	(H22) NO.2	(H23) NO.2	(H21) NO.3	(H22) NO.3	(H23) NO.3	(H22) NO.4	(H23) NO.4	平均	最大値		最小値	指標	
		單位																
1、壳上高飼料費率		(%)	42.9	39.9	37.4	57.6	48.6	51.5	61.2	53.2	55.3	53.6	55.0	49.8	55.3	37.4	50%以下	48.5
2、壳上高人件費率		(%)	18.7	15.6	18.4	16.4	15.5	15.6	19.9	20.6	21.4	9.2	10.2	16.4	21.4	10.2	17%前後	18.6
3、壳上高衛生費率		(%)	7.9	5.7	7.5	8.7	6.8	7.0	6.2	5.0	5.6	6.4	8.6	7.2	8.6	5.6	8%以下	5.0
4、壳上高支私利息率		(%)	2	1.4	0.7	1.5	1.2	1.3	0	0	0.0	0.5	0.4	0.6	1.3	0.0	3%以下	1.0
5、壳上高純利益率		(%)	-0.6	3.5	3.5	1.7	0.2	0.1	-15.7	-17.8	-13.5	-3.2	-2.2	-3.0	3.5	-13.5	6%以上	-3.2
6、壳上高所得率		(%)	0.1	10.7	11.2	0.1	7.9	7.8	0.0	2.6	7.6	-1.3	-0.5	6.5	11.2	-0.5	15%以上	6.3
7、飼料1kg平均價格		(円)	37	36	35	46	41	42	53	48	54	46	48	44.8	54	35		40.3
8、生体kg当り販売額		(円)	287	302	297	271	280	279	298	326	335	278	281	298.1	335	279		292.3
9、生体kg当生産原価		(円)	232	231	229	269	242	250	325	345	354	291	268	275.2	354	229		264.8
10、枝肉kg当り販売額		(円)	438	460	454	411	424	422	459	490	504	423	426	451.6	504	422		442.0
11、枝肉kg当生産原価		(円)	354	353	350	382	352	363	500	520	533	420	365	407.6	533	350		396.8
12、出荷豚1頭販売額		(円)	33,176	34,820	33,574	30,683	31,774	30,954	34,694	37,185	38,290	31,311	32,036	33,713	38,290	30,954		33,397
13、出荷豚1頭生産原価		(円)	26,827	26,674	25,879	28,550	26,356	26,593	37,805	39,399	40,531	31,096	28,915	30,480	40,531	25,879		29,966
14、1母豚当り売上高		(円)	591,440	642,908	664,441	584,311	681,991	628,295	728,422	731,887	630,476	660,554	734,991	664,551	734,991	628,295	63万円以上	647,589
15、1母豚当生産原価		(円)	455,354	481,855	499,884	527,580	543,456	514,854	785,278	772,156	655,583	560,748	619,041	572,341	655,583	499,884	57万円以下	567,859
16、1母豚当り純利益		(円)	△ 4,136	22,647	23,121	10,059	1,225	867	△ 114,072	△ 130,423	△ 84,889	△ 20,988	△ 16,230	△ 19,283	23,121	△ 84,889		△ 24,721
17、1母豚当り所得		(円)	52,163	68,678	74,204	60,836	53,541	49,165	28,816	19,280	47,952	△ 8,635	△ 3,777	41,886	74,204	△ 3,777	10万円以上	40,391

表-4 神奈川県10力年間 養豚経営飼養技術分析結果の平均値

年 度	14('02)	15('03)	16('04)	17('05)	18('06)	19('07)	20('08)	21('09)	22('10)	23('11)
診断集計戸数(戸)	6	6	6	6	6	3	3	3	4	4
労働力人員(人)	5.2	3.5	3.8	4	3.7	4.8	4.0	4.0	6.0	4.3
母猪常時飼養頭数(頭)	292.5	182	225.9	229.2	221.5	303.4	220.2	224.9	367.4	252.6
雄豚常時飼養頭数(頭)	18.2	9.6	9.6	9.8	9.9	11.4	8.4	8.8	21.1	9.1
繁殖成績										
1腹当生存子豚頭数(頭)	10.4	10.4	10.4	10.2	10.6	11.1	10.9	10.9	10.3	10.4
1腹当離乳子豚頭数(頭)	9.4	9.3	9.3	9.2	9.4	9.4	9.2	9.3	9.0	9.3
1母猪当年間離乳頭数(頭)	20.2	20.3	21.2	20.6	20.6	21.6	20.3	21.5	20.0	20.4
育成率(%)	90.7	89.5	88.6	90.4	88.7	85.2	84.7	85	87.5	89.7
分娩回転数(回)	2.18	2.21	2.33	2.29	2.21	2.3	2.28	2.37	2.23	2.22
離乳日令(日)	25.5	25.5	24.3	24.4	25.8	25.4	25.6	26.3	25.7	25.2
母猪更新率(%)	36.8	35.2	44.8	40.6	39.8	40.3	36.6	27.1	41.2	32.1
肥育成績										
1母猪当り肉豚出荷頭数(頭)	19.2	19.6	19.6	19	18.6	19.6	19.4	19.1	19.3	19.4
肉豚出荷体重(kg)	112.0	113.2	113.6	114.1	112.8	112.3	113.5	115.0	114.3	113.0
1頭当り枝肉量(kg)	73.5	74.2	74.3	74.9	74.0	75.0	74.3	75.3	75.5	74.6
1母猪当り枝肉出荷量(kg)	1,393	1,382.6	1,424.7	1,377.0	1,347.0	1,411.7	1,430.7	1,412.3	1,427.3	1,422.1
事故率(離乳一出荷)(%)	5.2	4.9	7.2	9.0	7.8	12.9	9.7	7.2	7.0	4.1
農場飼料要求率	3.5	3.55	3.54	3.46	3.46	3.60	3.48	3.46	3.58	3.49
枝肉飼料要求率	5.3	5.45	5.45	5.38	5.36	5.61	5.27	5.33	5.47	5.32
(参考)										
県内豚飼養戸数(戸)	110	100	99	95	88	82	69	71	—	64
県内豚飼養頭数(頭)	95,500	98,500	98,800	92,400	86,500	78,400	76,800	79,700	—	74,900
県内1戸当り平均飼養頭数(頭)	868	985	998	973	983	956	1113	1122	—	1,170

神奈川県10力年間 養豚経営経済性分析結果の平均

年 度	14('02)	15('03)	16('04)	17('05)	18('06)	19('07)	20('08)	21('09)	22('10)	23('11)
診断集計戸数(戸)	6	6	6	6	6	3	3	3	4	4
1母豚当り売上高	661,272	609,286	681,711	655,894	633,030	669,429	759,013	634,725	647,589	664,551
枝肉kg当り単価	461	420	466	465	463.5	472	517	436	442	452
1母豚当り飼料費	267,059	284,263	312,109	287,851	283,089	363,449	403,063	345,370	313,985	331,252
飼料単価	36.3	38.4	40.4	38.9	40.0	48.1	53.6	45.5	40.3	44.8
1母豚当り生産原価	499,365	515,759	540,350	523,324	494,520	578,444	659,728	589,404	567,859	572,341
1母豚当り純利益	66,205	△ 1,605	41,995	9,309	10,465	8,474	△ 4,130	△ 36,050	△ 24,721	△ 19,283
売上高飼料費率	40.3	47.5	45.7	43.6	44.9	53.7	52.6	53.9	48.5	49.8
売上高人件費率	17.3	16.8	14.6	15.8	15.4	14.3	15.5	18.3	18.6	16.4
売上高衛生費率	4.4	5.1	5.7	6.4	5.4	6.2	6.4	7.6	5.0	7.2
売上高支払利息率	1.3	1.4	0.9	0.7	1.0	1.1	1.0	1.2	1.0	0.6
売上高純利益率	9.4	-1.1	6.1	1.2	1.7	1.2	-0.7	-4.9	-3.2	-3.0
売上高所得率	19.3	10	14.9	10.7	11.0	7.7	10.0	7.7	6.3	6.5